

★わたしの意見

PCB汚染に

思う

梶木 豊二

〈神戸市衛生局長〉



文明という壁をより高く厚く築いたとき、その壁が高ければ高いほど、厚ければ厚いほど、その壁の中で次々と発生し作られる悪疫の被害は、より深く重いものである。今や文明とは何なのだろうかと深く反省すべきときであろう。われわれは文明の一端として、より便利なものを要求してやまない。その便利さとは表面より見た意識であって、裏面には同じ価値の不便さを宿していることを認識していかないのではないだろうか。現在の公害現象は将にこのことで、広く人間が用いている物で人間が苦しんでいると云う、所謂第三期、自滅型公害の容相を示し、今日問題となっているPCB汚染問題は将にこれに該当する。

「何故か」。それはPCBの持つ輝かしい性質によっている。水に不溶。油、有機溶媒に可溶。化学薬剤に対して不変。熱に対して安定で不燃性であり乾燥しない。電気絶縁性が高く、高温にても金属を腐蝕しない等。こんな便利な物質を発明合成し得たのである。その性質は永年電気関係者が熱望久しい物であっただけに、コンデンサ用、トランス用、熱媒体、ノーカーボン紙として全世界にその便利さを提供し続けたのである。

PCBがこともあろうに生物系で検出されたのは約十年前、スエーデンの野鳥及び魚介からであり、以来世界各地で問題を提起し、米国、スエーデンに次いで日本でも昭和四七年八月二四日に暫定規制値が定められ、今日の大問題にまで発展している。

PCB汚染水域、汚染魚種が発表され、汚染魚が市場より追放され、PCBの製造使用が禁止されている今日、残された問題は健康被害の有無であろう。油脂に溶け、魚体を介して人体に吸収されるとは云え、その四割しか最高で吸収し得ない油脂に含有するPCBが百万分の三以下に規制されている現状を考察するとき、現在の混乱は少々過大ではなからうか。静かに検査成績を見つ、便利さと不便利さ。文明とは何ぞや。青空の神戸の窓辺に思索をめぐらす毎日である。

P

●三宮の楽しいショッピング・オフィス街への出勤に
末積カーポートビル 近代的な立体駐車場 150台OK



●普通車30分＝¥100

スピーディな駐車 親切な応待—

■冷房完備・TV付の

待ち合い室もあります。

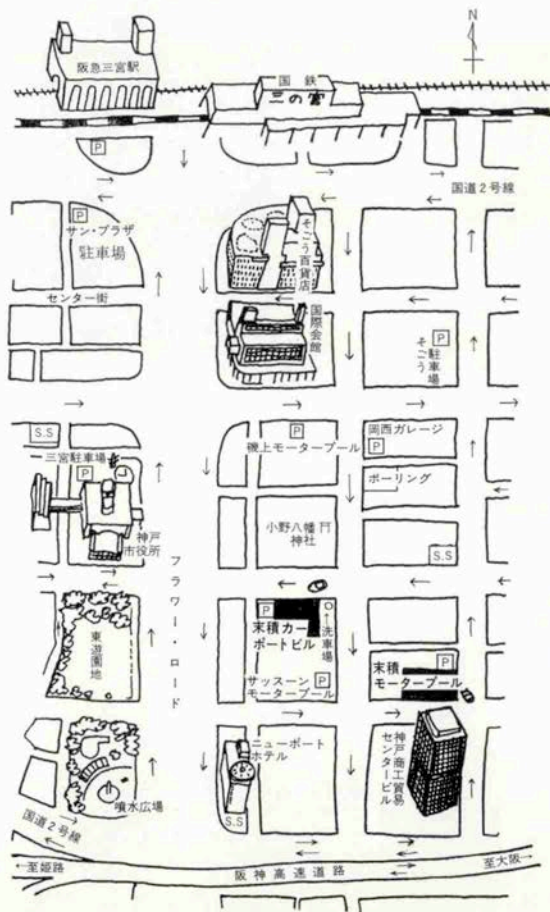
■あさ8時—よる10時(日・祭日営業)



末積株式会社

神戸市葺合区磯辺通4丁目6番地ノ2

TEL 078 (221) 9 8 8 7



随想三題



後山頂上より「氷ノ山」(兵庫一の高峰)を眺む(スケッチ/吉見敏治)

山との 取り決め

吉見敏治

〈画家・自由美術会員〉



兵庫の山やまを描こうと、但馬突粟、播磨をかけまわりスケッチやら尾根歩きをしているうちにもう、一年以上終ってしまつたらうか。

小学生のころ再度山へ祖父につれられ毎日曜、青年会館(戦前、レンガ造りで山手六丁目の電車道の山側にあつた)の横を北へまっすぐ、武徳殿のよこから谷川のへりを通り、池の横をすぎ大竜寺へ……帰路、藤の棚のある茶屋でトーストとコーヒの朝食をとり、輪なげをやって帰る。また次の日曜朝五時前に「トチター(敏)用意でけとるか!!」—ステッキに半パンツ姿。チビだが精悍そのものの祖父が玄関にたつている。

これが楽しみで六日間がまたたくまにたつていた。それから戦争、戦後のドサクサ……。

そしていまから十五年位前だつ

たか、友人のOさんから「おまえ山をさかんに描きよるが、山にのぼらんと、山のポリウムや恐ろしさ、清々しさを描きよるとするなんておこがましいぞ!!」

登ってみないことには本当の山はつかまへられん、ということらしい。登るべきや否や……私もカチンときたので大いに議論をたたかわせた。

山に関する限り、彼は遥かに先輩である。こうなつたら、コッチも登るより仕方がない。

「登つたるがな!!……山靴貸してんか。アルプスでも何処でも登つてくるでエ」

六月の何日だつたか、Oさんの靴で単身上高地へ向かう。たしか「山開き」その日であつたらうか。バスが釜トンネルを抜けてカーブした。そのとき仰いだ神々しい穂高の姿は脳裏にしっかりとやきついてしまった。きょうは仰ぐだけやないんや。あの白い山の上までのぼつたるんや。

バスを降り横尾で一泊、翌朝、涸沢ヒュッテにたどりつく。その翌日、早立ちの山男たちの後について雪のなかを奥穂高と涸沢岳の間の稜線に向つていた。稜線に近づくとつれ風はきつい。すぐ下にあるハイ松に囲まれたほどよい岩壁に腰をすえて山を描く……いつの間にか陽は高くなつていた。あ

たりには山男の姿などどこにもない。雪崩の危険もあるだろう。急いで下りなくっては……登り当時の踏跡は溶けてグサツ、グサツと靴がめり込む。小さな雪崩が音をたてながら私の横を走る。だんだん気味悪くなってくる。……とにもかくにも溜沢へたどりつく。意地やら何やらで、ここまでやってきたんだが……来て本当によかった。こんなことでもない（〇さんとのヤリトリ）六月初旬の穂高へ山の初心者私なんか来ようもないからだ。

上高地まで下ると、ウエストン祭[※]で自動車が沢山並んでいて、美人が勢揃いして、華やいだ雰囲気帯をとりまいていた。私はよこをすり抜け先を急いだ。

神戸へ帰って、早速と〇さんを見返して、もったいな気がしたけど、ハイ松の上で描いた一枚を彼に贈った。

それからというものは、何だか山を麓から眺めるだけでは、山に悪い気がしてしまっ、一度は頂上を踏むか、その山中を遊ばせてもらうかしてから描かせてもらおう……そんな、山との取り決め[※]のようなものが出来てしまった。

しかし、眺める以上に山中にわけ入って、切り倒され、根こそぎにされた樹林のあとの生々しさをを見るにつけ、その破壊のひど

さ、規模の大きさに憤りをおぼえないわけにいかぬこの頃である。

第二の故郷

神戸

驚田真弓

（県立こども病院看護婦）



私の故郷は東京である。東京に生れ、東京に育って二〇余年。東京しか知らなかった私が、須磨にある県立こども病院に就職するために神戸に来て一年半になろうとしている。

生れてはじめて東京以外の土地で生活するようになって観念として持っていた関東と関西の違いを、自分の身体で感じるようになった。片側を山に、片側を海に囲まれ、朝に夕に部屋の窓から様々な色の海を眺めることのできる生活は、私にとってすばらしいものであった。東京にいる時、「好きなじゃないわ」と思っていた関西弁を今では知らないうちに自分でも使っている。

私は大いに満足であった。そんな状況の中で神戸についてはまったく素人である私が「兵庫交通遺

児を励ます会」を結成したのである。

交通遺児を励ます会は全国組織で、私は東京で二年余この活動をやってきた。そして私がやってきた兵庫には、幸か不幸か「励ます会」がなかったのである。

「神戸のことは何も知らないのに」「看護婦の仕事は不規則だからそんな時間ないわ」「仲間がいなもの……」。ありとあらゆる口実を考えてみたものの、今や交通問題は他人事ではないのだという気持ちになっていた私は「やれませんが」とはいえず、「がんばってみます。」と全国の仲間と約束してしまったのである。

あれから一年余。何人かの仲間を与えられ、多くの方々の協力と善意に支えられて、励ます会は歩いてきた。そして励ます会結成半年で、交通遺児の作文集「おとうさんをかやして」を発刊することができた。そしてこの五月には、励ます会が主体となって「ゆつくり歩こう運動」を展開していったのである。

「ゆつくり歩こう運動」とは我々の活動のリーダー玉井義臣氏によって提唱された「ゆつくりの哲学」を体現した運動であった。交通遺児をこれ以上増やしてはならないという想いと、今や私にとって第二の故郷となったこの神戸

が、今以上に美しくあつてほしいという願いを持って私はこの活動にとり組んだ。

この活動は文字通り「ゆっくり」である。何よりも人間中心の、人と人とのふれあいが大切にされる社会を目指して、これからも歩いていきたいと思う。

今「ユックリズム」の第二弾として一台の赤い自転車―赤トンボ号―が、全国の子供達によって乗り継がれて、日本一周をしようとしている。赤トンボ号が自動車に押しつぶされないように祈りながら、神戸にやってくる日を待っているきょうこの頃である。

弱者の目

有井 基

〈神戸新聞記者〉



呪いの人形（ひとがた）がみつかった。三月の某夜、友人Kさんから電話をもらった。みつかったのは阪急六甲駅南の八幡神社。所用が立てこんでいて見に行けぬまままでいたところ、程経て五葉の写真が送られて来た。

男女それぞれの下着を、人体の

人形で押えつけるように、立ち木に留めてある。人形のノド元から心臓部を中心に、五寸釘が二十本余り。たぶん嫉妬の鬼と化した女が「死ぬ、死ぬ」と口走りながら怨念こめて打ち込んだのだろう。

丑の刻（うしのとぎ）参りが、現代にも生きていた、というべきだが、傍らにシンナーかボンドを吸引したらしいビニール袋が一つ。もし呪い殺そうとした女のそれなら、ポゼッション（憑霊状態）に身をひたし「生きながら鬼神に成してたび給へ」（大平記・剣巻）と、念じたことだろう。

一念凝らして殺意の達成をはかるうえで、自ら生霊（いきりょう）と化す。この情念の凝集に、ひたすら人間の、いじらしさを感ずる。

神戸の雑誌「文学壟壕」に小論「くらやみの系譜」を連載し、のじぎく文庫で「怨霊のふるさと」を出版して以来、なぜ幽霊や妖怪にとり憑かれたのか、という問いに、何度も出会う。

さして動機らしいものはないが、しいえば臆病だし腕力にやわい。だから幽霊と同じに、死んでしか抵抗できない。幽霊なんて、死んでから現世ではあらざるところの存在を獲得し、恨みつらみは述べるけれども、直接手をくだして人を殺さない。相手を呪

い、破局へ手引きするだけなのだ。非力を僕は、そうしたあわれや、いじらしさに同調した。いつても説明になるかどうか。

だから、夜、墓場へ行くとき、風もないのに、石が語らい、ざわめいている。それがちつともこわくない。にもかかわらず、山奥の神社の森に立つと、すごくこわい。くらやみの沈黙に潜む得体の知らない悪意を感じてしまう。古代の人たちは、そのおそれから神観念を抱いた。神は傲慢で冷酷だ。ただ摺伏するしかなかった。

柳田国男系の民俗学者は「妖怪は神の零落した姿だ」という。たしかに系譜をたずねると、その零落は、ストンと下層民まで垂直に落ちていく。傲慢さも、冷酷さも発揮できない弱者が、一つ目小僧やノッペラボーに仕立てられ、差別を受けている。そのスタイルにしてからが、時に底辺に置かれた人たちのそれに似、時にひょうけて滑稽である。

したがって僕は、くらやみにいて神を見ず、ものけのうめきをさがすことになる。怨念や呪咀に形を与えたいと思う。グロテスクとされたものを、さぐりたいとも思う。そのために必要なのが、強がりのない（弱者の目）だとすれば、さしづめ僕など、身に合った作業だろうから――。

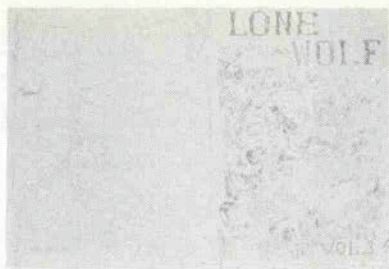
□ある集いその足あと

SFファンダム

ローン・ウルフの会

藤井 光

(「ローン・ウルフの会」代表)



会誌ローン・ウルフVol. 2、3

今年になって、小松左京さんの「日本沈没」がミリオンセラーとなり、それに重なって「赤ちゃん永遠に」「ソイレント・グリーン」などのSF映画が上映され、人気を博していることから、再々々度SFブームか!とジャーナリズムたちは、やれ地球の滅亡近しとか、危機迫るとか、現在の社会状況と相乗作用を起こし馬鹿騒ぎをしている。

そんな世間を尻目に、我がファンダム「ローン・ウルフの会」は去年の六月結成された。SFファンダムとはSF愛好家の集いという意味である。中学時代の先輩と二人で、SFファンダムを創ろうということになり、そのうちに一人、二人と入会してきて、七月現在の会員数は二十三名、うち十名が女性である。現在会員の年齢層はハイティーンが大部分で、下は中学三年生から上は大学三年生まで、そして社会人はどういうわけか二人だけ。

会合は、現在は毎月一度日曜日に三宮で開いているが、八月以降毎月第一、第三日曜日、午後一時半からやはり三宮の喫茶店で開く予定である。会合には毎回平均して十二人余りが出席し、女性も毎回顔をみせる。

実際、女性がSFを読んで夢中になっても、このようなファンダムに入るにはいろいろと障害があり(とくに未成年者は)、会員全体の半分近くをも女性占めるファンダムは非常に珍しい。また、男性でも自分ひとりではSFを読んで楽しんでる方がいいという人も多く、SFを追求してこいという積極的な姿勢がなければ入会してこない。(ただし例外は常にある)

我々は愛好家の集いということ

で、会合では遊び程度、SFに関してダベル程度である。

発行物は、季刊ペースで会誌の「ローン・ウルフ」、これは現在第三号まで出ている。連絡誌「きいとくれ」は第二号、今年の九月には百ページ強の機関誌「幻夢郷」第一号を発行する予定。

現在会員募集中。女性大歓迎、特別優遇。

SFといえば、ひとむかし前、サイエンス・フィクション(空想科学小説)といわれ、宇宙人やロボットが出てくる子ども向きの低級な文学ジャンルだと世間一般には考えられてきた。

しかしSFについての解釈・定義というものがあるがSFとは限られていない。新しい表現手段としてSF的素材が単に用いられているというだけで、文学的にみても非常に高度な作品もたくさんある。イギリスの作家ジョージ・オーウェルの「動物農場」もそのような作品群のひとつにあげることができらるだろう。

SFを知るためにはSF小説を一冊でも多く読むことである。SF小説をぜひ御愛読あれ。

SFファンダム「ローン・ウルフの会」

連絡場所・高砂市北浜町西浜一〇六二

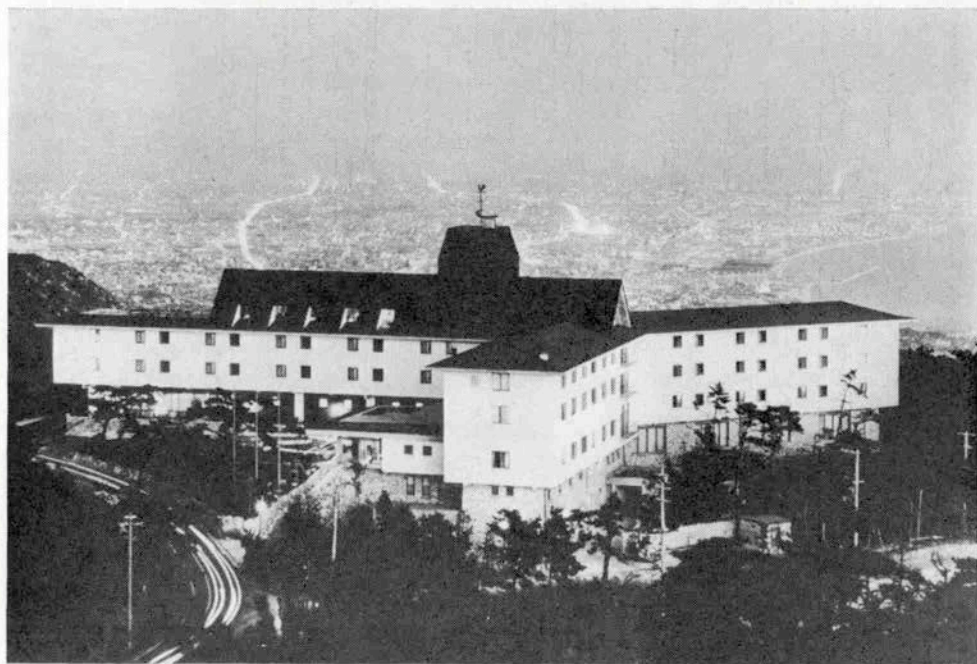
TEL〇七九二一五四一一一六

藤井 光

緑・オゾン・涼・夜景・詩情

ジンギスカン料理と自然を満喫してください

□ジンギスカン料理 3,000円~7,000円



六甲オリエンタルホテル

TEL. 891-0333

高校野球

楠本 憲吉

え・貝原 六一

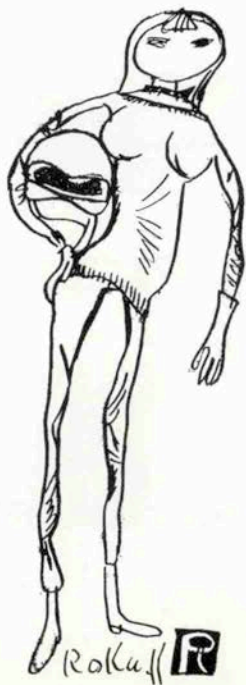
私の末弟——楠本徳蔵は昭和二十年の八月に、あと数日で終戦という日に戦死してしまった。それも日本の近海の船上である。

弟は関西学院の中等部で野球の選手をしていた。四年になってキャプテンになり、いい成績を残していたのに、自ら志願して予科練生となり、結局はそれが戦死につながってしまったのであった。

スポーツ好きのいい少年であった。

私は高校野球を見聞するたびにこの悲運の弟のことが偲ばれてならないのである。

昨年夏、某民間放送局から依頼されて、台風をはらむ灰色の雨雲のもと、白球を追い、熱球を打つ高校野球甲子園大会を観戦することとなっ



た。

甲子園球場は青かつらに覆われ、きょうちくとうが咲き、正面入口にはこれまでに優勝した学校の校旗が林立——真夏の球宴にふさわしいすこぶるカラフルな印象を受けた。

俳句と野球——といえば、全く無関係と思うひところが多いだろう。

そもそも「野球」ということばが正岡子規の俳号であったのだ。

当時、野球のことをベースボールといっていた。

子規はこのベースボールに熱中し、本名の升（のぼる）をもじって野（ノ）球（ボール）と号

したのであった。

そして、当時、野球用語に適当な日本語がなかったのだが、子規はいち早くこれらを翻訳している。

ピッチャーは投手、キャッチャーは捜者、ファーストが第一基人、セカンドが第二基人、ショートストップが短遮、レフトが場左、ホームランが回了。アウトが討死、ドロップが墜落。

当時フォアボールは四球でなく九球であったのも面白い。

野球に熱を入れた結果、野球の歌も俳句も作っている。

有名なのは歌の方が

久方のアメリカ人の始めにしベースボールは
見れどあかぬか

という歌に始まって、

九つの人九つの場を占めてベースボール
の始まらんとす

いまやこの三つのベースの人満ちてそぞ
ろに胸の打ち騒ぐかな

それから俳句のほうでは

球うける極秘は風の柳かな

若草や子供集まりて球を打つ

草茂みベースボールの道白し

夏草やベースボールの人遠し

蒲公英やボール転けて通りけり

というような句があり、とにかく俳句以前に、
そうとう野球に熱を入れたとゆうことは、これ
うなずけるわけである。

私の少年時代、甲子園には佐藤愛子さんが住んで
いた。当時、彼女は甲南女学校の女学生で、そ
の美貌と花やいだ雰囲気は、我々少年にとって、
まさに、あこがれの的、高嶺の花であったのであ
る。

私はその頃、灘中学校の冴えない生徒であっ
た。そして同級生に遠藤周作君や藤綱亮三君がい
たのであった。

勿論、三人とも彼女の大ファンのひとりであっ
たが、彼女は我々などまるで眼中になかった。

あとで、佐藤愛子さん自らの口から聞いたので
あるが、当時、彼女が非常に熱中していた少年が
いたのである。

そのひとことこそ、甲陽中学のエースにして四
番バッター、甲子園の花とうたわれた、別当薫氏
そのひとにほかならなかつたのであった。

別当氏から見れば、私も遠藤君も及そおよびで
はあるまい。しかし幸か不幸かこの三人は慶応義
塾大学の同期のサクラときている。

いづれ近き将来、同期会を開いて、佐藤愛子さ
んを招待し、大いに青春を回顧したいと思ってい
るが、果して実現、可能なりや、否や。

□れんさい随想〈8〉

ブラジル無宿

津高 和一 (絵と文)

△画家・大阪芸術大学教授▽



もともと旅は人間の遊び心というか、解放感のようなものを与えてくれる。自在で気儘な気持ちで自分の周辺でさわさわとするのである。

自由にしていたつもりの日常生活にも、眼に見えない枠があることも発見できた。いくなれば裸身の自分との対面ができたのであった。

また、僕自身の過去も現在も知らない人間たちの群の中で行き交っている、そのこと自体が、なんということさらの意味はなかったが、一個の生身の人間として生きているという実感が身にしみてくる。

これは地球の裏側のブラジルに来ていながらという特別の意味ではなかった。その後もヨーロッパの国々を一人歩きしたときにもそうであった。

なにかが解っている心算が、解っていないことともよく出会った。その度に心細くなったり、意を強くしたりしたものである。

バイーアはその意味でも素朴で、粗野な街で僕にはありがたい街であった。うねうねと曲りくねった石畳の道を上り下りしながら、粉飾のない人間たちとの接触が気持ちを落ちつけてくれた。

明日という日がどのように展開して行くのか、まるでここの住人であるかのように思考をめぐらせたりしたものである。

バイーアでの忘れられない思い出の一つは、フェラー・デ・サンターノ（市の立つ街の意味）のことである。早朝にサルバドルの街を出発して平均時速一三〇キロぐらいのスピードで延々と直線コースを疾走した。

起伏のなだらかなこの道路では行き交う自動車や人間は時おりで、ベシャンコになった野鳥や、犬の死骸から一斎に飛び立つ黒い鳥の群の佻しい風景が唯一の変化であった。五、六時間ぐらいの行程でサンターノの街に近づくにつれて馬車や人間を満載したトラック、家族づれの荷車などを追い抜いた。

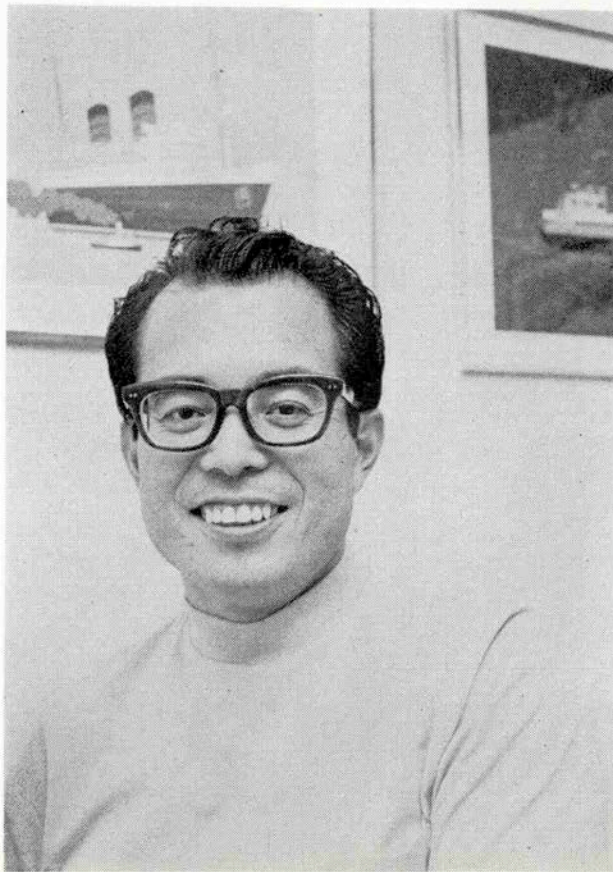
平坦な地平まではるかに眺められ、わずかに傾斜した地形にサンターノの薄汚れた街を中心にして、子供の頃に見覚えのあるサーカス小屋に似た小屋がけや、夜店のような小さな屋台等、ありとあらゆる食料品から日常の雑貨類、それに馬、羊等の動物までが売買されていた。巨大な堂々とした古い市場もあった。

街全体が月何回かのこの巨大な市場に変身するのである。近隣といっても二、三百キロなどは普通で、それ以上の遠くからも売手、買手が盛り上るように集まって群集になった。

□ インタビュー □

船キチにさせた神戸

「船の画集」(海文堂出版社刊)を出版した
柳原良平さんにきく



サントリーのコマーシャルや、ひたすら船を描く船キチの漫画家として活躍中の柳原良平さんが、このほど元町の海文堂出版社より「船の画集」を出版。

その原画展とサイン会が、六月二十九日、三十日と神戸をこいで、また、二十九日の夜はスカイサントリーで出版記念会が開かれた。

編集部では船キチ柳原さんにさつそくインタビュー。まず、神戸の印象はいかがですか。

——いつだったか友人と日本の港でどこが一番いいかと話したことがあるんですよ。どちらでもすぐ神戸をあげましてね。港の規模の日本一はもちろんですが、船からみた町のながめがすばらしいし、食い物がうまい。それから、女性が美しいですね。お世辞めきでほんとに。一番悪いのは東京という点でも一致しましてね。でも神戸も、ポर्टアイランドができて悪くなりましたよ。

それまでは港内が全面にみわたせたのに、鳥ができてからは、ながめがわるくなりましたしね。

それでも、メリケン波止場や日本郵船、商船ビルの建物があるあのあたりは全然変わっていないですねえ。旗が風になびいていたりしてね。子供の頃から神戸にはよく遊びにきました。船の絵葉書を波止場で売っていた。戦争の頃は、波止場をうろろ歩いている小学生の僕をスパイじゃないかと憲兵にいらまれたりね。(笑)

柳原さんと船との結びつきは？

——子供の頃から船が好きで、京都に住んでいたから、船の写真や絵葉書をしょっちゅうみてました。時々、神戸の友人と港をみにいたり。好きな船を描いていたらいつの間にかそれで食っていたりしてね。

昔の船と今の船と比べて、いかがですか。

——飛行機のない時代は、船は交通機関の花形でした。

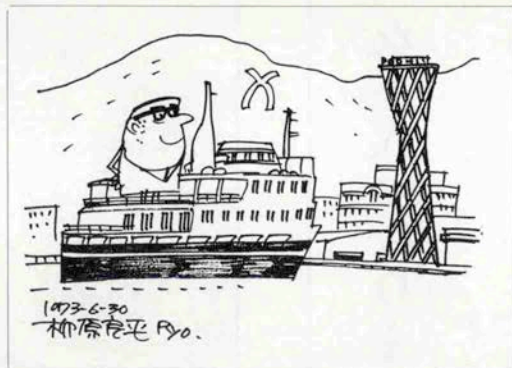
だから、時代の要求にあった昔の船は、しまつていくというか、とにかく美しいですね。だから、今のよう飛行機におされた船はおもしろくないですね。しまつていないんですよ。僕が現代で興味を持つ船はコンテナ船とタンカーかな。船としては無味乾燥だが、力強さが感じられる。クルルさがあるんですね。フェリーは船の限界を出ているというか、経済性と合理性を追求しすぎで、船としてはあまりおもしろくないと思いますよ。僕にも好きな船とそうでない船があつて、今度の画集を出す時、この船が入つてなければおかしいというわけで、その船が好きでなくても描かなければならない時は、仕事がかどらなかつたですね。

船旅もお好きなんですか？

——客船の船旅も楽しいけど、印象的なのは七人で貨物船で旅行した時。中国のオリエンタルヒーローという船ですが、時間がおくれる船でね。食い物がものすごくうまかつたんですよ。アメリカの客船もうまかつたな。でも、コラル・プリンセス号はあまりうまくなかつたな。

船旅のおもしろさというのは？

——もちろん、飲み食いの楽しさですね。だから、食い物のまずい船にのつた時は楽しさが半減しますよ。第二に、退屈の楽しさ。でも、退屈の楽しさをわからない日本人が多いんですね。そのいい例が洋上大学。スケジュールがぎつしりでしょう。船にのつてまでおそわらなくてもいいと思うんだがな。もつとのんびりと船の生活を楽しめないものかしら。日本人というのは人の話をききたがるんだね。裏返せば、自主性がないということになるんだろうけど。第三に人間関係。たくさんの人と非常に親しくなれる。とくに洋上大学のように若い男女が大勢のつてると自然



にカップルができてね。でも、日本人は社交術がへたというのか、仲間意識が強すぎるといふのか、国際的な客船では日本人ばかりかたまりすぎるくらいがあります。かたまってヒソヒソ話しているかと思えば急に手をたたいて歌い出したりして。外人はびっくりしますね。それから船旅では女の人はおしゃれの楽しさが味わえますよ。朝、昼、夜とT・P・Oの服装が楽しめるし、自然とおしゃれに自信ができますね。僕は、最近の若い人がところかまわずジーンズばかりはいている気持ちかわからないんだけど。夜でも、ジーンズでくるま座になつて、どんちゃん騒ぎをしているのは、まるで山賊いや海賊の酒盛りですよ。ステテコ姿でないと楽しめないし決めつけるのがおかしいんだなあ。うまいものを食う気持ちといい物を着る気持ちが文化をつくると思うんですよ。周られたうちの世界の港はどこがよかつたですか。

——ニューヨークですね。左側に自由の女神、正面にマンハッタンの摩天楼、そして、くしの歯のように突堤が出ていて、五万ト級の船が停泊していて、それは景色がいいんですよ。サンフランシスコもゴールデンブリッジがあり、小高くなつていく町の雰囲気はいいです。昔の町は船から入るように自然とつくられているから味があるんですが、ロスアンゼルスのような新しい港町は、船で入つても飛行機で入つても同じ印象を受けるからおもしろくないですよ。

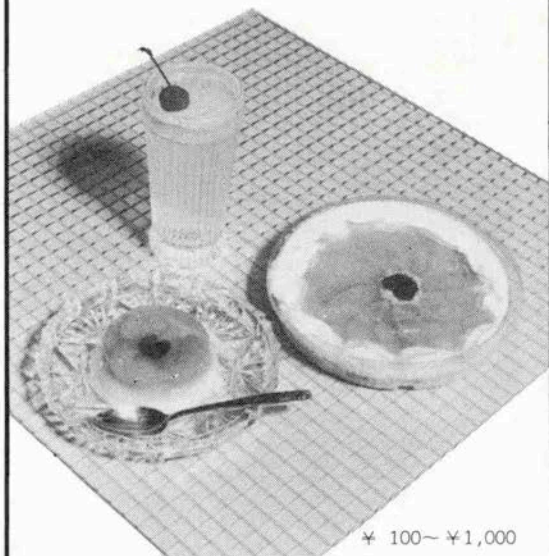
神戸のポर्टアイランドに何かいいアイデアは？

——昔は、川重のガントリークレーンが迫力がありましたね。必要なものだったからです。ポर्टアイランドも港に必要なものからつくり出していけば、自然と町ができていくのじゃありませんか。

冷たあ〜い夏…………

冷菓

メロン・ピーチ・マロン・パパロア
ミツマメ・ミカン
和風冷菓・ぜんざい・せせらぎ



神戸にそだって75年

神戸
元町



風月堂

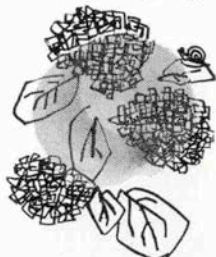
本店 / 元町 3 丁目 TEL 391-2412
さんちかスイーツタウン店 TEL 391-3455

「あじさい」の女主人になりませんか？

おんなあるじ

元町1番街の元町ファーストビル2Fにあるシックなティールーム「あじさい」は、元町のいこい処。その3Fに、「あじさい」のしやれた美味しい紅茶やチョコレートが楽しめる部屋を11月に造る予定ですが、その優雅な部屋の女主人をさがしています。ティールームをやってみたいという趣味のある方で、商いにも興味のある方。もし、ご縁がありましたら開店までに、いろいろ勉強して頂いて「あじさい」3Fの女主人にと思っていきます。

ご連絡は ☎ 391-3138 (大塚迄)



ティールーム

あじさい

肌で感じた八億の国

井尻 昌一

〈神戸市助役〉

滝川 博司

〈兵庫トヨタ自動車(株)専務取締役
(社)神戸青年会議所
日本J.C特別委員会委員長〉

寺本 滉

〈(株)淡路屋専務取締役
(社)神戸青年会議所理事長〉

小林 博司

〈小林桂(株)専務取締役
(社)神戸青年会議所国際室々長〉

★子供の歓迎には感激した

井尻 このたびの神戸市と天津市の友好都市提携のことの起こりなんですが、昨年の九、十月に宮崎市長が全国訪中水泳団の団長として訪中したとき、北京で周総理にお会いをして友好都市提携の話を持ち出したわけです。

そのときは基本的に周総理が話を了解されて、廖承志さんらのところへ話が行き、では、予備折衝をやるうということになったのですが、その後ずつと返事がなかったところ、今年の四月に、六月に訪中することを歓迎するという電報がきたのですね。それで六月一日から二週間の予定で、主として天津、北京を回ってきました。

天津では友好都市提携の下詰めをやりましたが、そのとき、こんなことが話題になりました。言葉の問題として、姉妹都市ということにひっかかるわけですね。人口は天津がお姉さんですなあ、港の方は神戸がお姉さんですなあ、そうすると、色んなことからするとどっちがお姉さんか妹か分らないなということになったんですね。それで、姉妹都市じゃなくて友好都市がいいのじゃない

かということになったわけです。また、中国としてはこういう都市提携は初めてなので、神戸は今までシアトルなんかと提携をやっているが、そのときの話をきかせてくれというのですね。どういう形で出発するのかということですね。私たちは今まで提携式をやったり文書交換で署名をやったりしてきたといえますと、それも結構ですが、そういう形よりも実績をつみ重ねて行く方が第一じゃないですかというわけです。天津市の革命委員会主任(市長に当たる)に表敬訪問をしたときにも同じことをいうわけです。こういうことは形よりも実績を積み重ねて行きましよう。一歩前進するときには必ず足跡を残すようにしましよう。

では具体的にどんなふうにするのかとなりまして、天津の方で提携集会みたいなものを持ちましよう。人民礼堂に各機関(工場、学校など)の責任者を集めた大衆集會をやりましよう。その場で主任が天津が神戸と友好都市提携を結んだ宣言をやりましよう。神戸は宮崎市長が来られたときに宣言して下さいということで、それじゃそうしましようということになったわけです。ところがこれだけじゃ、お互いの新聞には出るでしょうが、後に



井尻 助役

しているのですが、それと同じものを周総理におみやげとしてもって行きました。その目録に、未来永劫の日中友好は、青年層の活発な交流を通じてこそ確固たるものとなることを信ずるといふようなことを書きました。

ところで今回の訪中までのいきさつなのですが、昨年の西理事長のときから、神戸JICでは中国問題を勉強していますし、メンバーでも中国に行っている人はたくさんいたわけですね。ただ、JICとして訪中団を出したことは、まだなかった。それはJICが中国側からもう一つ理解されていないということで仲々招請状が来ないわけです。しかし、努力を続けて継続事業としてやっと今年になって実現したわけです。関西各界訪中団四十名の内、十名が兵庫県割り当てで、その内の八名を神戸JICのグループとして行きました。名前も神戸JIC訪中団というのを使得ってよろしいということになっていました。JICの訪中団というのは日本はもとより、世界でも初めてです。

何にも残らないなあということになって、それじゃ、市の旗の交換をやりませんかということになった。ところが、成程、それはいいことですね。しかし、天津には旗がありませんねというわけですよ。それで、いや、どのようなものでも結構、天津を代表するようなものであればということになったわけです。それで、宮崎市長が訪中したとき神戸市旗を持っていったところ、ちゃんと用意してあったのですね。そして市旗を交換して、両者の代表者が大衆の前で宣言して、その日から友好都市の歴史を飾りましょうということになりました。

今回、市長が訪中したときに天津へ招請状を持って行ったので、九月頃になると思いますが、天津の各級の責任者を厳選して、天津市革命委員会の正式なメンバーが神戸へくると思っています。また、十月六、七日に神戸で各区対抗の総合体育大会があるのですが、これに天津市のバレーボールチームと神戸市との対抗戦が実現するものと思われまます。

寺本 五月二十八日から六月一二日まで神戸JICのメンバー八名が訪中しました。前にシアトルと神戸が姉妹都市提携を結んだとき、神戸JICから真珠の鍵をプレゼント

広州、上海、杭州、北京、広州、香港と回ってきました。メンバーは気心も知れていますので、まあ楽しくやってきました。そのときにJICの主旨、JICの歌・綱領を中国語に訳した印刷物をたくさんもって行って、特に中国の若い人に配りました。それで、中国側から来年にはJIC独自の派遣団を何とか実現できるよう努力しようという約束をもらい、所期の目的を果して帰ってきたわけですね。

小林 昨春秋、私が中国に行ったときにJIC訪中の意向を中国側に伝えたのですが、JICの意義というか、性格がハッキリとつかめていないのですね。商工会議所とどう違うのか、あるいは、ライオンズとかロータリーのような慈善団体なのか、ということをかかれるわけです。

今年春、もう一度念押しをしてきて、今回の訪中の運びとなったわけです。

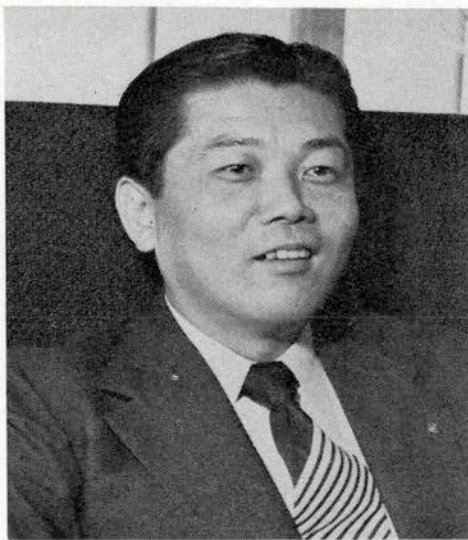
井尻 確かに中国は初めてのことに関しては実に慎重だ

し、また勉強もしますね。私が驚いたことには、トームボールとは何ですか、神戸ベルとは何ですかと聞くのですね。初めは何のことかなと思っていたのですが、シアトルとの提携のときにトームボールと神戸ベルとを交換しているのですね。それを知っているのです。ちゃんと勉強をしているわけです。

寺本 J.C.の場合も中国側はかなり迷っている様子があったのですが、それは、全国の五百あるJ.C.の内、台湾と提携を結んでいるJ.C.がたくさんあって、そのことを知っているのですね。反面、神戸J.C.が一つの中国というだけで非常に進んだ考えをもっていることも知っているわけです。

滝川 今、台湾の話が出ましたが、神戸J.C.としても、対中国の問題に神経を使ったこともありましたが、私の印象としては、中国側は指導者と人民とは違うのだというハッキリとした建前というものをもっていますね。たとえば、日本帝国主義という言葉も出してきましたね。たど、お前さん方と指導者とは違うのだということが会話の節々に出ています。

井尻 私どもは、どっちかという、公式なメンバーと



寺本 湯さん

して訪中したせいでしようが、非常な歓迎をしてくれましたね。ちょっととまどう位です。北京の飛行場に着いたら天津から迎えに来てくれているのですね。行くところ、ものすごく歓迎してくれます。それがみていて本当に心から友好を願っているという感じがするのです。ニコニコして、手をたたく、握手をして、本当によく来てくれたという感じがですね。日本と仲良くしたい、もう戦争はいやだという感じが本当に分りましたね。

滝川 おとなの歓迎もさることながら、子供の歓迎には非常に感激しました。こんなものは教えられたり、しくまれたりではどうにもならないことだと思えます。子供は本当に生き生きとして、ニコニコとして、非常に感激しました。

小林 あれは上海でしたか、学校を訪問したときに、小学生位の女の子たちが歌と踊りを披露してくれた。いわゆる熱烈歓迎ですね。

井尻 学校といえは、天津の小学校へ行ったら、子供たちの中に紅少兵の赤いマフラーをしている者としていない者がいるのですね。それで、あれをつけているのは何だとききますと、あれは、行かないと思想が共にいい子供だということで、それじゃ、つけていないのはアカンのかといえますと、今はアカンのだというわけです。そんなことをしたら差別をすることになり、かえって教育上悪いのじゃないかという、いや、そうじゃない、つけていない子供はつけるように努力をする、皆が努力をして卒業するまでには全員がつけられることを目標にしてああしているのだ、差別じゃないというわけです。そこが日本人の感覚と違うのですね。

★どろぼうがないねえ

井尻 天津は今、市内で三百二十万、郊外を入れて四百三十万の大都市ですが、人口百万人のために住宅を二十



滝川 博司さん

とおいたまま出て行くのですね。香港へ帰ってきて大分
カ、カが狂いましたけれど(笑)。

寺本 夜が早いんですね(笑)。午後の参観を終えて、夕食
を済ませましたら、夜の七時頃ですね。それから、何か
買物と思うのですけれど、もう店が閉りかけている。
それでタクシーなんか数も少ないですし、バスなんかは
言葉が分らないのもう一つ乗れませんし、だから、夜
の買物とかブラブラということは全然なかったですね。
もっぱら部屋で学習をしていました。

滝川 私は商売柄、自動車の普及の程度に関心があつた
のですけれど、上海、北京などでは非常に多いという感
じがしました。まあ、もちろん、それとは比べものにな
らない位に自転車は多かったのですが。まあ、自動車が
案外よく走っているという感じがしましたね。まだまだ
個人が所有するという段階ではないのですが……。

小林 ひとつ、これはぜひ御紹介したいのですが、少年
宮というものがあるのですね。両親が働いているケース
が多いので、課外活動といいますが、学校から帰ってき
たあとの時間をそこで過ごすわけです。そこには、先生
もいるし、高学年の生徒もいて、音楽、舞踊、刺繍、工
作などをやらせています。また、子供の遊び道具もあつ
て、日本という鍵っ子にならないようにしているように
思ったのですが……。

寺本 それこそ本当に子供の宮殿という感じですね。建
物は粗末なんですけど、部屋数が多くて、部屋毎に色んな
セクションに分けて教えてくれるのですね。塾みたいな
ものです。

井尻 男女同権というのは労働の上に完全に出ています
よね。現実に、クレーンを操作している女性や、左官、
道路舗装をやっている女性を見ました。

小林 それに女性が遅くまで働いています。

滝川 訪問した工場では二交替、三交替とやっているよう
ですが、男も女も関係なしに深夜労働もやっているよう
です。

万平方米建てないと追いつかないといっていました。ま
ちは昔のレンガの家と、新しい四、五階建ての近代的な
住宅とが両方あって、どっちかという景观はゴミゴミ
している感じのまちです。しかし、緑はきれいですね。
解放後も木を植えていますけれど、前からの木がきれい
ですね。日本のまちは狭いせいもあるけれど、木が小さ
いし、皆が大事にしていない。中国では少し広いとい
ろがあると道の両側に三重位に木を植えたりしていま
す。

まちがきれいなので、掃除はどうするかときくと、
市の革命委員会の環境衛生局が夜にしますのでね。また
朝起きたら市民はみな自分の家の前を掃除する。それに
ゴミをすてないし、汚さない。そういう市民の協力や教
育が行き届いていますね。ハエなんかもおりませんし、
非常にまちがきれいですね。

寺本 夜中に掃除をしているのは、私もみましたね。水
をまいてきれいにやっているのですね。また、泥棒がい
ないというのにもびっくりしました。どこのホテルでも
鍵を全然かけないのですね。

滝川 鍵をあけっぱなしにして、机の上にお金をポーン

★息長くつき合おう

井尻 ところで、中国としては七億とか八億の民をどうして腹いっぱい食べさせて行くかが、今一番の関心事だと思いますが、それは成功していますね。今年是非常な早魃ですけれども。まあ、食糧は十分あると思うのですが、住宅、衣服、工業製品とかについてはこれからだという感じですか。しかし、自給自足という国柄ですから、すぐには市場としては、考えられないでしょう。段々と中国の欲しいものも分ってくるでしょうが。日本人の直ぐにワツと押しかけるといふ気分じゃなくて、長い目でつき合って行く、そのうちお互いに欲しいものをみつめて行くという、ゆっくりとした気分でないでしょうか。

小林 中国の経済というのは自給自足ですから、とにかく、日本の最終製品を売る市場として考えたら駄目ですよ。それよりも、技術協力とかで行く方が、長い目でみての商いがあるでしょう。それから、中国から日本への輸出もあくまで中国は日本のためにつくって売るといふ



小林 博司さん

なくて、自国の経済政策の上に立って生産した余剰のものを売るといふ考えでしょうね。資源の供給源としてみるという考えはちょっと間違っているように思います。

井尻 都市提携は今回が初めてなので、中国にはうまく行くのかどうかという心配があると思うのです。また、日本でも神戸市が中国との第一号の提携都市になったのですが、これから中国と提携をしようとしている他の都市が非常に関心を示している。だからこの提携がこれらうまく行くことによつて、日中両国人民の交流も段々深まって行くでしょうし、お互いよく知り合うことで仲良くなると思います。それだけに私たちの責任も重く、また神戸市民にもその辺のことをよく知ってもらわないといけないと思います。これから一步一步積み重ねて息長くやることが必要だと感じております。

寺本 私たちは、何でも中国に迎合するというのじゃなくて、いつも私たちがしているカッコウのまま参観をしまして、遅れているものはハッキリそういいましたし、おかしいと思うことについては意見もいって、いわゆる迎合型の参観はしなかったわけですが、後からそうやってよかったと思っておりますし、また、そういうやり方が中国側からも好評であったと聞いております。今後ともそういうことでやって行こうと思っております。

滝川 ともすれば中国と仲良くすればどんな得があるのかと考える勝ちでですけど、結果的にいってお互い得をするところがあればいいので、まずそんなことを抜きにして、市民同士が交流をしてお互いに理解を深めることが結局は両方にとって得になることだと思えます。

小林 中国から今後も日中友好のために神戸JICが大いに努力をして下さい、二つの中国をつくる陰謀に加担しないように、また、神戸JICが日本のJICの中国への窓口になってくれるようにといわれてきましたし、何といつても日本のJICの中で対中国に関しましては最前線を行って行くわけですから、私たちがそれを自覚して努力して行きたいと思っております。

(於 相楽園会館)